



2023年3月27日

各位

上場会社名 粧美堂株式会社
代表者名 代表取締役社長 寺田正秀
(コード番号 7819)

お問い合わせ先
役職・氏名 取締役管理本部長 斉藤政基
TEL 03-3472-7890

上場維持基準の適合に向けた計画書に基づく進捗状況について

当社は、2021年12月21日にプライム市場の上場維持基準への適合に向けた計画を提出し、その内容について開示しております。2022年12月時点における計画の進捗状況等について、下記のとおり作成しましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準の適合状況及び計画期間

当社の2022年12月時点におけるプライム市場の上場維持基準への適合状況はその推移を含め、2022年9月末時点で不適合であった「流通株式時価総額」と、今回2022年12月末時点で不適合であった「1日平均売買代金」について以下のとおりとなっております。

当社では2026年9月期までに、上場維持基準を充たすために、引き続き各種取り組みを進めてまいります。なお、東京証券取引所の判定基準日を踏まえて、売買代金の計画期間は2025年12月末に変更しております。

		株主数 (人)	流通株式 数 (単位)	流通株式 時価総額 (億円)	流通株式 比率 (%)	1日平均 売買代金 (億円)
当社の適合 状況及びそ の推移	2021年 6月末時点	10,472	58,076	24.2	43.3	0.03
	2022年 9月末時点	10,221	48,684	19.8	36.3	—
	2022年 12月末時点	—	—	—	—	0.06
上場維持基準		800	20,000	100.0	35.0	0.20
当初の計画書に記載した 計画期間		—	—	2026年 9月末	—	2025年 12月末

上記、「当社の適合状況」に記載の各数値については、東京証券取引所が基準日時点で把握して

いる当社の株券等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

2. 上場維持基準の適合に向けた取り組みの実施状況及び評価

【1日平均売買代金】について

・取り組みの実施状況ならびに評価

当社は、上場維持基準の適合に向けて、2021年12月に公表した中期経営方針にそって上場維持基準の適合に向けて着実に計画を実行し進捗しております。

基準を充足していない1日平均売買代金については、積極的なIR活動を通じて投資家の皆さまに当社業績の向上と成長性の加速をご認識頂き、もう一つの未充足項目である『流通株式時価総額』と同時に増加させてまいります。中期経営方針の基本方針である「経営基盤強化とトップライン収益の積み増し」により売上高の増加と営業利益率の改善を目指しており、円安・資源高による売上原価の高騰という強い逆風の中で、成果を上げております。

特に重点販売先への取り組み強化については、小売業における各業態のトップランナーの企業に対して当社の経営資源を優先的に配分し「モノづくりのパートナー」としての地位を目指しております。一方で採算が取れない中小の取引先の数を大幅に減らすことで取引先数は過去数年で3分の1以下に圧縮し重点販売先向けの売上が飛躍的に伸びた結果、当社グループ連結売上高は2022/9期において前年比で22.3%と大幅な増加とすることができました。また過去数年間行ってきた経営基盤強化策の中で従業員数を大幅に削減しても効率的に業務を進めることで営業効率を高め一人当たりの営業利益は急激に改善しております。

IRにつきましても従来にも増して積極的に取り組んでおり、社内の担当者を大幅に増員し説明会資料の充実努める一方で、年二回の決算説明会について、機関投資家からのアクセスを増やすべく当社決算説明会の案内メールを従来アクセスのなかった投資家向けに発信、また決算説明会の録画については、極力決算説明会開催の当日中にホームページで公開しております。機関投資家との1on1のミーティングも2021年12月のプライム市場の上場維持基準の適合に向けた計画を公表以降、引き合いが大幅に増加するなど機関投資家からの注目も高まっており適宜開催しております。

(投資家との1on1ミーティング開催実績)

2021/9期 4回 2022/9期 19回 2023/9期 (2023/2末まで) 8回

当社ショールームの開放については、2022年12月20日の株主総会終了後に行い、当社商品をご覧いただき、見学を希望される株主の方に対して当社社員が商品説明を行いました。

開示情報の充実に関しての英文開示については、決算短信の一部抜粋、決算説明会書き起こし記事、招集通知・株主総会参考書類について当社ホームページに公開するなど対応しております。

この他、サステナビリティへの取組として従来から行っている

- SDGs に資する環境負荷を低減した商品の開発
- がん治療に伴う副作用で発生する脱毛など、がん患者向けの外見ケア用品の企画開発とサポート活動（SSB プロジェクト）
- 国内外の福祉施設への支援を行う NPO 法人に対し日用品や雑貨等の寄付活動

などに加えて以下の事項を実施致しました。

- 大阪公立大学公認団体の学生の皆さんと協働し使い捨てコンタクトレンズのプリスターパックの空容器の回収事業（2022/11）
- 企業版ふるさと納税を活用し、横須賀市、F・マリノススポーツクラブが実施する人工芝片から新たなスポーツ用品を生成する「SHIBA-Up」プロジェクトへのサポート（2022/11）

などを新たに開始し企業市民としての役割を果たしております。

上記の施策を通じて、業績の向上と成長性の加速を念頭に行動してまいりましたが、円安や原材料高など当社の事業環境が想定以上に悪化したことで、当社業績の先行きに対する見通しが不透明になったことが、「1日平均売買代金」および「流通株式時価総額」が伸び悩んだ大きな要因であると評価しております。

3. 上場維持基準の適合に向けた今後の課題と取り組み内容

今後の課題と取り組み内容につきましては、海外から製品を調達しているファブレスメーカーである当社にとって円安・原材料高など厳しい事業環境にあるものの、中期経営方針で定めた戦略目標を愚直に遂行していくことが、中期的に投資家の皆さまからご評価を頂くことに繋がると引き続き考えています。

特に重点販売先に対しての取り組みを一層注力することにより、紐帯を強化しお取引先から企画段階よりファーストコールして頂ける「モノづくりのパートナー」としての地位を築いてまいります。

また IR 活動につきましても、「決算説明会の内容充実」ならびに「投資家の皆さまとの個別ミーティング開催」を積極的に推進してまいります。

以上より当初計画からの変更はなく、2026 年 9 月期には目標を達成し上場維持基準を充たせるように、全社一丸となって業績向上を目指していく方針です。

以上